

令和7年度足立区立第十二中学校 学校経営方針

校長 千葉 千登勢

1 本校の教育目標

- 自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 本校の重点事項

○スローガン「みんなで学び合い、高め合っていく十二中生！」 ～対話や協働を通じて、ポジティブな行動を目指そう～

○令和7年度足立区教育振興ビジョンに基づき、生徒が主体的に活躍するために授業や全教育活動において
ICTを効果的に活用し、SDGsを意識したカリキュラム・マネジメントを推進させる。

3 めざす生徒像、教師像

<生徒像>①学ぶ意欲と向上心をもち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒

②自己肯定感を高め、地域・社会に貢献できる力を持つ生徒

③思いやりの心、命を大切にする心など豊かな心と健やかな身体を持つ生徒

<教師像>①「分かる授業・魅力ある授業」を目指して研修に努め、授業改善を図っていく教師

②生徒に「考え、学び合い、話し合い、発表する」活動を通して、主体性を育んでいく教師

③生徒一人一人の個性や多様性を把握し、豊かな心と体を育んでいく教師

④保護者・地域と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育んでいく教師

4 本年度の重点的な取組

1 基礎学力の定着と向上を目指した「分かる授業・魅力ある授業」の実現

① 「足立スタンダード虎の巻」に基づいた授業実践

「めあて」「まとめ・振り返り」を明確にした授業展開の統一化を図り、生徒の実態に応じた単元指導計画・評価計画を作成する。全教員一人1回以上管理職による研究授業・授業観察と年3回以上教員同士の授業観察を設定し、授業改善と授業力向上を目指す。区学力調査の分析と活用による学力向上を目指す。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教育活動の実践

各教科「主体的・対話的で深い学び」の視点から思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善と全教育活動において指導を展開する。大仙市派遣教員授業を通して校内研究授業を実施し、全教員が対話的・協働的な学びを実践していく。

③ ICT機器を活用した分かる授業の実践

タブレットやデジタル教科書、AIドリルの効果的な活用法についてモデル校として実践と研修を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。管理職による授業観察では、ICTを活用した授業を実践する。

④ 個に応じた学習指導・学習機会

朝学習・確認テスト・単元・小テストの年間計画を作成し、基礎・基本の定着を図る。放課後補充学習(JUT)、サマースクール、通所型中1夏季勉強合宿を通して個別学習を充実させ、学力の底上げを図る。

⑤ 小中連携教育の継続

「足立スタンダード虎の巻」に基づき、教科の枠を超えた共通視点の下に分科会を設け、区学力調査結果を活用した研究授業を実施し、近隣小学校との連携を図っていく。

2 自己肯定感を高め社会に参画する力の育成

① キャリア教育の推進

キャリア教育「基礎的汎用能力」の視点の下、全教育活動の年間指導計画を作成し、可視化することで生徒に意識をもたせる。夢デザインシートを活用し、行事や学期末ごとの振り返りをさせる。

(ア、相手の話を聞き、理解する力 イ、お互いを認め合える力

ウ、自らの気持ちを素直に言葉にできる力 エ、物事の課題を発見し、協力して解決しようとする力)
キャリア教育支援事業や職場体験を系統的に実施し、キャリア教育の充実を図る。



- ② SWPBS（スクールワイド Positive Behavior Support）の推進**
キャリア教育を通して学級活動と生徒会・委員会活動についてポジティブ行動マトリクス（きまりを守ろう 自分も友達も大切にしよう 自ら行動しよう）を具現化し、主体的な行動を目指す。
- ③ 主体的に社会と関わる力の育成**
防災教育推進モデル校として、災害を想定した「マイ・タイムライン」の作成により生徒の地域防災意識を高める。命の安全教育、租税教室について外部講師を招聘し、3年間を系統立てた指導計画の下、実施していく。
- ④ 学校図書館の活用**
図書館司書を活用し、授業や「総合的な学習」を通して学校図書館を積極的に活用する。また、「調べる学習コンクール」に積極的に応募していく。
- ⑤ 学校と地域の連携・協力支援**
学校公開週間や土曜授業、学校行事以外にも日常的に学校を公開し、保護者及び開かれた学校づくり協議会委員による授業診断、学校関係者評価等を活用して、その結果及び改善策を家庭・地域と共有し、学校の説明責任を果たす。また、保護者会、学校だより、学年通信、ホームページ、H&S等を通して、積極的に学校の情報を公開する。開かれた学校づくり協議会およびPTAと連携して、校内清掃活動ボランティアを実施する。

3 豊かな心と健やかな体の育成

- ① 不登校・不適応生徒への未然防止につながる支援体制と環境づくり**
特別支援コーディネーターを中心に「特別支援教育推進委員会」において、情報共有と支援策についてSC・SSW、教育相談関係機関や外部支援事業を活用しながら検討し、不登校・不適応生徒の未然防止と学校復帰、社会的自立の支援を行う。SSR（スマート・ステップ・ルーム）開設にあたり、運営上のルールと生徒の段階に応じた取組について教職員で共有しながら組織的に多様な学びを支援していく。
- ② 特別支援教育の推進**
特別支援教育推進委員会を中心に特別支援教室「SAKURA」の生徒理解と指導成果を共有し、ユニバーサルデザインの視点の下、視覚的・具体的に分かりやすい授業展開、教室環境改善を推進していく。
- ③ 人権教育の推進**
生徒一人一人の個性と多様性を重視した「人権を尊重する学校」を教員が自ら模範となってつくる。ルール、マナー、挨拶、5分前行動、TPOをわきまえた言動などの凡事徹底と「生徒指導提要」を踏まえながら、生徒が主体的に正しく判断できる指導と生徒の自尊感情や自己肯定感を高める教育を推進する。
- ④ 道徳教育の推進**
思いやりの心、自己肯定感、規範意識、平和を愛する心を育成する道徳教育を全教育活動の基本として実施する。また、「考え方議論する活動」を基に年間指導計画を作成し、指導の工夫・改善を推進していく。保護者や地域にも授業公開する。
- ⑤ 健やかな体づくりの推進**
給食の取組を活用した食育の推進と保健指導による感染予防、部活動などの体力向上に関わる取組を通して健康への関心を高め、健やかな体づくりを推進していく。
- ⑥ 「足立区いじめ防止基本方針」に基づいた組織的な対応**
「いじめ防止対策委員会」を中心に「いじめに関するアンケート」「いじめ個票・一覧表」「WebQU」を活用して情報を共有し、いじめの早期発見・早期対応・早期解決を行う。また、SCやSSW、教育相談関係機関と連携した対応を実施する。

4 広い視野と高い指導力をもつ教職員の育成

- ① 教員同士、互いに「尊敬と感謝」の気持ちを大切にする風土をつくる。**
- ② 地方公務員として、服務の厳正、適切な人権感覚・言語感覚をもつ**
- ③ 危機管理意識をもちながら指導にあたる。**
- ④ 安易な前例踏襲ではなく、5年先、10年先を見通した指導を心掛ける。**
- ⑤ あだちからの日を活用し、教員自身が心にゆとりをもちながら、研鑽を積み広い視野を培う。**